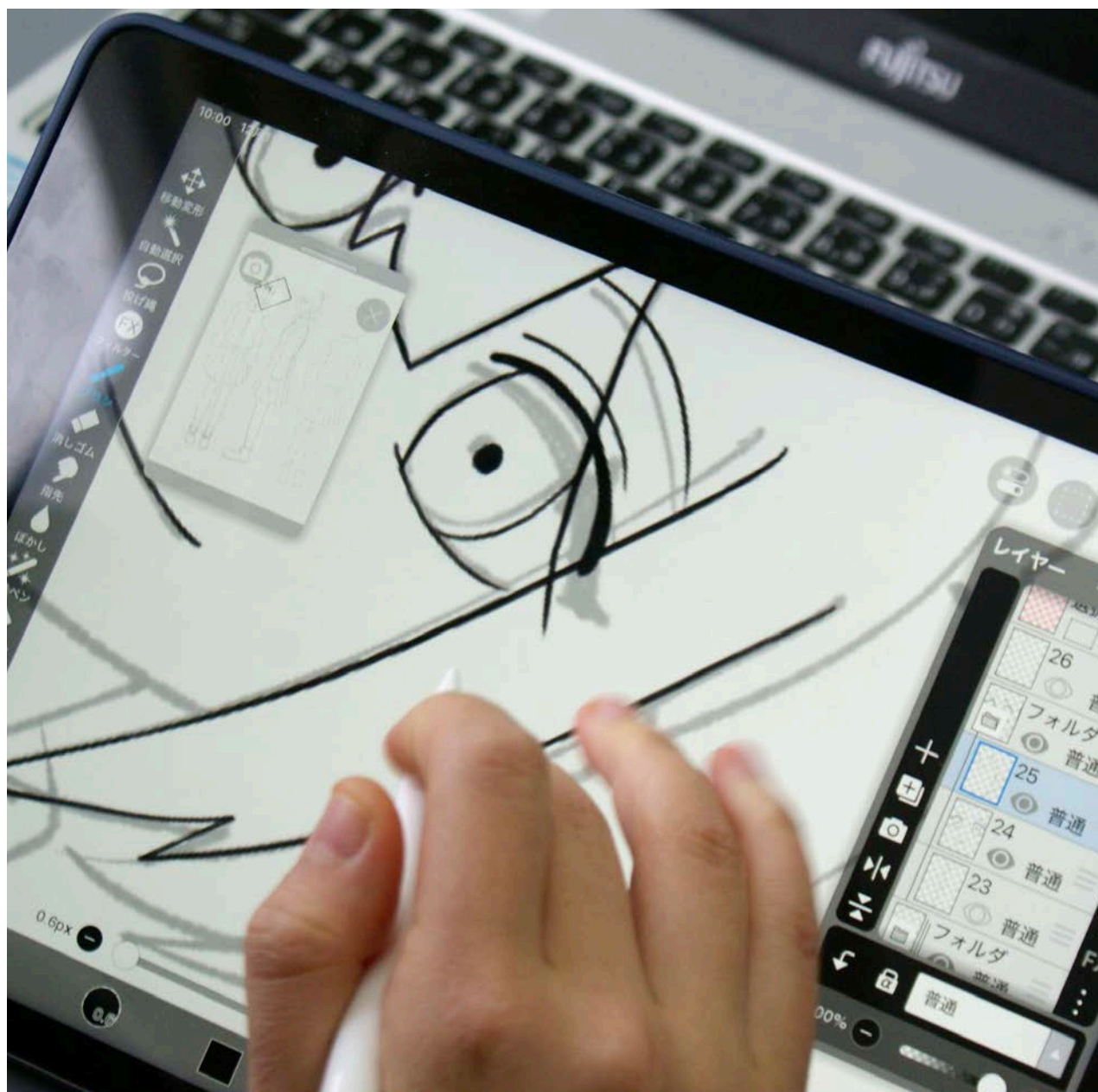


# IDDNewsletter.....

1  
January  
2025



特集

## 私たちの物語 ～科目「課題研究」における修了作品の制作～

専攻科2年生の科目「課題研究」では、2月の修了作品展に向けた作品制作に取り組んでいます。今回は、作品内容や学生の活動の様子について御紹介いたします。

# Contents

特集

## 私たちの物語

### 2-3 ～科目「課題研究」のおける修了作品の制作～

専攻科2年生の科目「課題研究」では、2月の修了作品展に向けた作品制作に取り組んでいます。今回は、作品内容や学生の活動の様子について御紹介いたします。

*Welcome to Information Design Department !!*

## 令和7年度の 入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科では、令和7年度入学生を募集しています。聴覚障害のある方で、高等学校や、特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食を利用でき<sup>(注1)</sup>、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます<sup>(注2)</sup>。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科Webページ内の「入学者募集」をご覧ください。

### 専攻科情報デザイン科 Web ページ

[http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page\\_id=228](http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228)

### 入学者募集について

[http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page\\_id=223](http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223)

### 入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

注1：1食350円（昼食）で、就学奨励費の対象となっています。注2：学年末・学年始休業日、夏季・冬季休業日は閉舎します。注3：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。注4：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注5：普通校には通常ない領域で、障害そのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。注6：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「ろう者」と聞こえづらけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分けられます。

## 情報デザイン科学科だより

Information Design Department

# IDDNewsletter

January 2025 1

IDDNewsletter January 2025

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

[www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp](http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp)

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。



## 専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。（いわゆる「準ずる教育」の教育課程です）
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト<sup>(注3)</sup>で、対費用効果の高い学習内容を学ぶことができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象<sup>(注4)</sup>となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。（例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！）
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」<sup>(注5)</sup>で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね（「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等）に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い<sup>(注6)</sup>などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に選択できるようにしていきます。

# 私たちの物語

## ～科目「課題研究」における修了作品の制作～

専攻科2年生の科目「課題研究」では、2月の修了作品展に向けた作品制作に取り組んでいます。今回は、作品内容や学生の活動の様子について御紹介いたします。

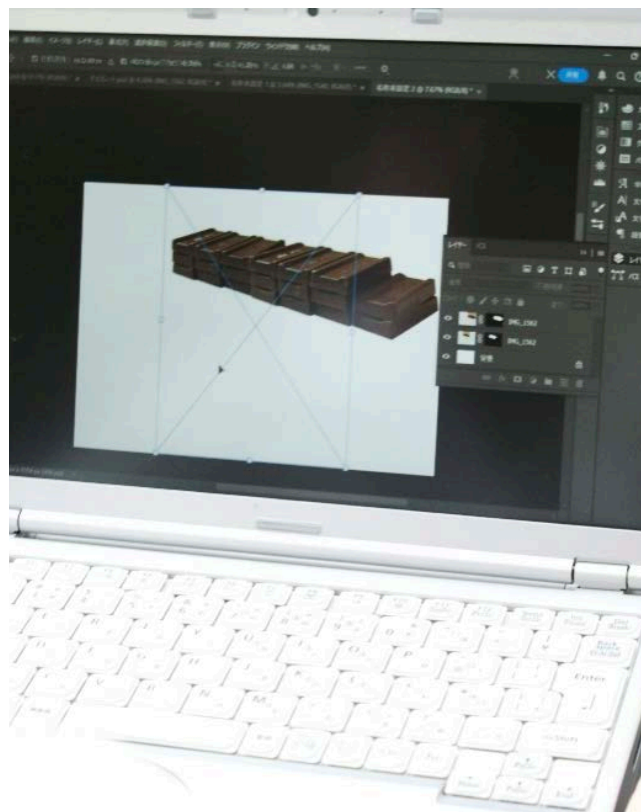
専攻科2年生の科目「課題研究」では、修了作品展への出品を大きな目標として捉え、自ら主題を設定し、年間を通して作品完成を目指して取り組んできました。今年度の4月から始まった課題研究も、終盤の時期となってきています。令和7年2月に開催予定の修了作品展に向けて、それぞれの作品の方向性やイメージもほぼ固まり、精力的に作品制作を進めているところです。

今回は学生の作品の内容や制作の様子について御紹介いたします。現在、情報デザイン科2年生は3名で、制作内容に共通しているのは、パソコンやタブレット端末を使用したデジタル作品であることです。自身の興味、趣向と共に、これまで情報デザイン科で学習してきた内容が大きく反映されていると言えます。

最初に御紹介する作品は、デジタルによるイラスト制作です。パソコンやタブレットのグラフィックソフトを使用してイラストを描いています。本校HP上で紹介がある情報デザイン科3人の女の子のキャラクターをモチーフに、表情や

ポーズ、配色、構図等、自分なりのアレンジで幾つかのパターンを制作し、最終的には情報デザイン科のポスターとして完成させるようです。これまで授業の中でもイラストを描いたり、趣味で好きなキャラクターを描いたりしていますので、ソフトの操作性や描画力はある程度、身に付いていますが、技術的に分からない部分はWeb上で調べたり、納得いかない部分は何度も修正を重ねています。見通しは立ってきているようですので、後はどれだけ描き込み、デジタルの特性を活かし、作品の完成度を上げていくかがポイントになります。

二つ目の作品は、写真を素材にフォトタッチソフトで編集加工したデジタル画像の作品です。いわゆる「見立て」といわれる手法で、小人に見立てた自身の写真画像と、様々な身の回りのありふれたものの画像を組み合わせ、どこかで見たとあるような風景を制作しています。この作品はアイデアに依存するところが大きいと言えますが、そのアイデアを基に、形の共通項等、自然な見え方ができるように表現力や技術力が不可欠となります。現状、アイデアを出すことに



腐心していますが、それらのアイデアが単に「面白い」だけではなく、「見立て」を表現できているか、そしてそれが共感を得やすいものか、実現可能かどうかなど、まだ思考を整理できていない部分もありますので、それらを踏まえ、今後、作品内容を深めていくことに期待したいと思います。

三つ目の作品は、3DCGソフトによるアニメーション作品です。チェスの駒をロボットのようなキャラクターに見立て、3Dモデリングを行い、それにボクシングや空手などのスポーツの動きをつけた動画を制作しています。昨年から構想し、関連する作例を見たり、3D制作に関する様々な情報を集めたりすることから始めましたが、ソフトウェアについての知識や基本的な操作方法を習得していくことにはかなりの時間を費やし、計画通りには進んでいないことを反省に挙げていました。作品については、制作当初に比べると、実際に3Dモデリングやアニメーションの質が格段に向上しています。期日までにどこまで自分の目標とするイメージに近づけていけるかは、今後の作り込み次第となります。

どの学生についても言えることですが、作品制作において、計画と見通しは極めて重要になります。作品のテーマや方向性が決まった後、制作スケジュールを立て、各段階の進捗を確認することにより、創造性を発揮しつつ納期を守ることが可能になります。計画的なアプローチが、作品の質を高め、完成度を向上させるとも言えます。2月の修了作品展まで、それほど多くの時間はありませんが、期日のぎりぎりまで、できるだけ一つ一つの目標をクリアして、自分自身が納得し、達成感を得られるように取り組んでいただきたいと思います。修了作品展については学科だよりの紙面でもご紹介できればと思います。ぜひ楽しみにしていただければと思います。

IDDN

